

水稻糯新品種「愛知糯115号」の育成

加藤 満¹⁾・加藤裕司¹⁾・伊藤 晃¹⁾・杉浦和彦¹⁾・船生岳人¹⁾・坂 紀邦¹⁾・
辻 孝子²⁾・中村 充³⁾・濱田千裕⁴⁾・藤井 潔⁵⁾・城田雅毅⁵⁾・杉浦直樹⁶⁾・
加藤恭宏⁶⁾・工藤 悟⁷⁾・加藤博美⁸⁾・澤田恭彦⁷⁾・井澤敏彦⁷⁾・鈴木敏夫⁷⁾・
釋 一郎⁹⁾・井上正勝⁷⁾

摘要：「愛知糯115号」は2011年に愛知県農業総合試験場において育成した水稻糯品種である。その来歴、特性は次のとおりである。

- 1 本種は、1999年に、「愛知糯103号」を母本とし、「あ系糯783」を父本として交配した後代から育成した品種である。
- 2 2001年、F₃集団で個体選抜を実施し、その後、系統育種法に従って選抜固定を進めた。
- 3 本種は、「十五夜糯」と同熟期の中生の糯種で、草型は偏穂重型に属し、耐倒伏性が優れる。
- 4 「十五夜糯」より多収で、米粒は大粒で、外観品質は良い。餅の食味は良い。
- 5 縞葉枯病に抵抗性を有する。

キーワード：愛知糯115号、水稻糯種、多収、大粒、縞葉枯病抵抗性

A New Glutinous Rice Cultivar 'Aichi-mochi 115' for Rice Cake

KATO Mitsuru, KATO Yuji, ITO Akira, SUGIURA Kazuhiko, FUNAO Taketo,
SAKA Norikuni, TUJI Takako, NAKAMURA Mitsuru, HAMADA Yukihiro,
FUJII Kiyoshi, SHIROTA Masaki, SUGIURA Naoki, KATO Takahiro,
KUDO Satoru, KATO Hiromi, SAWADA Yasuhiko, IZAWA Toshihiko,
SUZUKI Toshio, SHAKU Ichiro and INOUE Masakatsu

Abstract: A new glutinous rice cultivar 'Aichi-mochi 115' was developed in 2011. The pedigree and characteristics of this cultivar are summarized as follows.

1. The breeding of 'Aichi-mochi 115' was started in 1999 by crossing 'Aichi-mochi 103' and 'Akei-mochi 783'.
2. The individual selection was performed on the F₃ population that was planted in a paddy field in 2001. Since then, the pedigree method was applied for breeding.
3. 'Aichi-mochi 115' belongs to the medium maturing group same as 'Jugoyamochi'. This variety is a partial panicle weight type and resistant to lodging.
4. The yield is higher than that of 'Jugoyamochi'. The kernels of this variety are larger than those of 'Jugoyamochi'. Furthermore, it has an excellent grain quality.
5. This variety has remarkably high resistance to rice stripe disease.

Key Words: Aichi-mochi 115, Glutinous rice, High yielding ability, Large grain, Rice stripe disease resistance

¹⁾ 作物研究部 ²⁾ 作物研究部 (現環境基盤研究部) ³⁾ 作物研究部 (現山間農業研究所)
⁴⁾ 作物研究部 (現農業経営課) ⁵⁾ 作物研究部 (現園芸農産課) ⁶⁾ 作物研究部 (現農業大学校)
⁷⁾ 作物研究部 (退職) ⁸⁾ 作物研究部 (現愛知県経済農業協同組合連合会)
⁹⁾ 作物研究部 (現愛知県米麦振興協会) (2012. 10. 5 受理)

緒言

本県の糯品種の作付面積は、平成22年作で約300 ha（愛知県園芸農産課調べ）であり、品種別では「恵糯」¹⁾ 10 ha、「喜寿糯」²⁾ 40 ha、「十五夜糯」³⁾ 60 ha、「コノエモチ」⁴⁾ 30 ha、その他糯品種が160 haである。近年の傾向として、その他糯品種の作付が増大しており、現奨励品種、特に、「喜寿糯」、「十五夜糯」の作付が減少している。県産糯米の市場流通は極めて少なく、大部分は自家消費用である。

近年、地産地消の気運の高まりから、餅、みりんなどの糯米加工商品の地域ブランド立ち上げを志向する産地やメーカーが現れ、地域特産品の開発も試みられるなど、地場産糯米の潜在的な需要はある。しかし、現状では、産地はその要望に応えられていない状況にある。

県産糯米の生産拡大及び生産農家の経営向上を図るには、病害虫抵抗性や耐倒伏性など、栽培安定性に優れ、高品質で多収、更に、差別化、高付加価値化などのニーズに合致した糯米新品種を開発する必要がある。

「愛知糯115号」は、愛知県農業総合試験場が育成した中生の糯米品種である。「喜寿糯」、「十五夜糯」と比較して、米粒が大きく、多収であり、つき餅の硬化が早く、加工適性に優れている。また、耐倒伏性が優れ、「喜寿糯」、「十五夜糯」が持たない縞葉枯病抵抗性を持つため栽培安定性が高い。

「愛知糯115号」を導入することにより、良質な県産糯米の安定生産が可能となり、地域特産品の開発や6次産業化にも貢献できると考えられる。

本報では、その育成経過と品種特性を報告する。

育種目標、試験方法及び育成経過

1 育種目標

強稈、多収で栽培安定性が高く、耐病性に優れた特性を備え、更に、米粒の白度が高く、食味の良好な中生熟期の糯品種の育成を目標とした。

2 試験方法

生産力検定は稚苗機械植えで実施した。また、生産力検定、特性検定ともに、本県平たん地向きの中生熟期の現奨励品種「十五夜糯」を対照品種とし、また、早生熟期の現奨励品種「喜寿糯」を比較品種として試験を実施した。なお、いもち病検定及び現地試験以外は、農業総合試験場作物研究部において試験を実施した。

3 育成経過

本種の育成は、1999年、耐倒伏性が優れ、穂いもち、縞葉枯病に強く、餅の食味が良好な本県育成系統「愛知糯103号」を母本にし、極大粒で多収、良質な育成系

統「あ系糯783」を父本として、交配から始めた（図1、3）。

F₁～F₂世代：世代促進温室において、1999年の秋冬作でF₁を栽培し、翌年に、春作でF₂雑種集団を養成した。

F₃世代：2001年、F₃世代をほ場で栽培し、草型、穂相等で48個体、その後、玄米品質により12個体を選抜した。

F₄世代：12個別系統を展開し、草型、玄米品質等により6系統を選抜した。

F₅世代：5系統群6系統を展開し、草型が優れ、玄米品質が良好な系統の選抜固定を進めた。

F₆世代：3系統群8系統を展開し、草型、玄米品質が良好な1系統群に「育糯1889」の系統名を付した。

F₇～F₉世代：草型が優れ、玄米品質が良好な系統の選抜固定を進めた。

F₁₀世代：「愛知糯115号」の地方系統番号を付し、奨励品種決定調査に供試した。

本県平たん地域での適応性の検討を重ねた結果、有望と判断し、2011年3月をもって育成を完了した（図3）。

「愛知糯115号」は、2011年11月に愛知県職務育成品種認定会議において育成品種として認められ、同年12月に品種登録出願を行い、2012年3月に出願公表された。

試験結果及び考察

「愛知糯115号」は、太茎・強稈で耐倒伏性が優れ、極大粒で収量性が高く、縞葉枯病抵抗性を有するため、栽培安定性に優れる。また、「十五夜糯」に比べて玄米の白度が高く、餅、おこわの食味が良好である。

以上から、育成開始時に設定した育種目標を達成した。

本種の主要形質別の特性は以下のとおりである。

1 早晚性（出穂・成熟期）

愛知県平たん部における早植栽培では、「十五夜糯」より出穂期で3日、成熟期で5日遅い。普通期栽培では、「十五夜糯」と出穂期は同じで、成熟期は2日遅い。愛知県の熟期区分では「中生種」に属する（表1、2）。

2 草型

稈長は「十五夜糯」より1 cm長い。穂長は、「十五夜糯」より約0.5 cm長く、穂数は少ない。草型は「偏穂重型」に属する（表1、2、図7）。

N₀、N₁節間長は「十五夜糯」よりやや短く、N₂～N₅はやや長い（表4）。

1穂着粒数は、「十五夜糯」よりやや少ない。1次枝梗数が多く、1次枝梗着粒歩合が高い（表5）。ふ先色は赤褐で、芒は長さの中で、多い。脱粒性は「難」である（表1）。

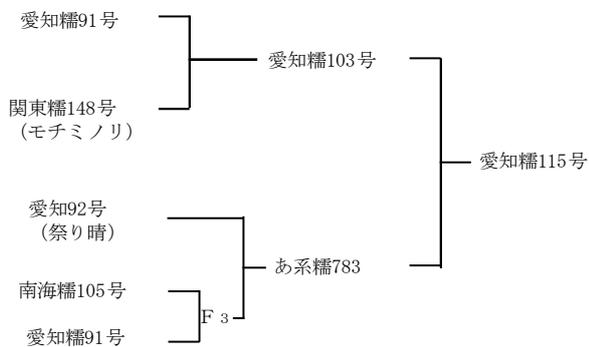


図1 「愛知糯115号」の系譜



図2 「愛知糯115号」成熟期の草姿

年次	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
世代	交配	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁	F ₁₂
系統群数					5	3	2	2	2	1	1	2	
系統数				12	6	8	6	6	8	3	3	8	
個体数			2000	360	180	240	180	180	240	90	90	240	
備考			個体選抜		系統選抜	育糯1889				愛知糯115号			

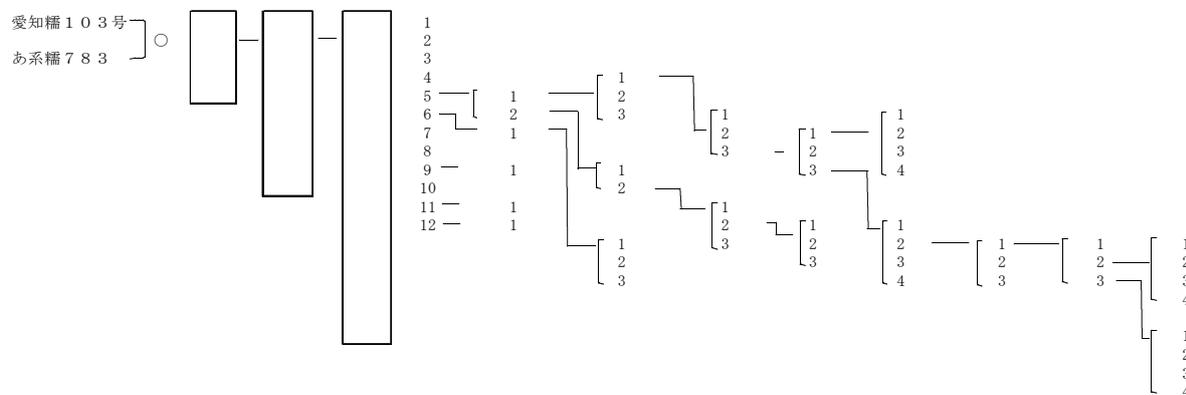


図3 「愛知糯115号」の育成経過

3 耐倒伏性及び穂発芽性

強稈で耐倒伏性は強い。穂発芽性は、「十五夜糯」の「易」に対して、「難」である(表2、8)。

4 耐病虫性

いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pii*と推定される(表9)。葉いもちほ場抵抗性は「弱」である(表10)。穂いもちほ場抵抗性は、生物検定が未実施であるために不明であるが、DNAマーカー検定では、インド型稲「Modan」由来の穂いもちほ場抵抗性遺伝子 *PbI*を持つと推定される。縞葉枯病に対しては、「Modan」由来の抵抗性遺伝子 *Stvb-i*を持ち「抵抗性」である(表11)。白葉枯病抵抗性は、「十五夜糯」の「やや弱」に対し、

「中」で優れる(表12)。

近年、縞葉枯病については、全国的に多発傾向にあるが、本県では、現時点では縞葉枯病の顕著な被害の報告はみられない。これは、本県の主要な主食用うるち種である「あいちのかおりSBL」、「あさひの夢」、「ゆめまつり」等の奨励品種が縞葉枯病抵抗性を保有しているためと考えられる。しかし、糯米、酒造好適米の現奨励品種は、いずれも罹病性であり、被害が危惧される。本報告での糯新品種「愛知糯115号」及び2010年育成の酒造好適米新品種「夢吟香」⁵⁾の新開発2品種は、抵抗性を保有するため、これら品種の導入により、生産地での被害を回避できると考えられる。

5 収量性、玄米形質及び外観品質

収量は、早植栽培、普通期栽培ともに、「十五夜糯」、
「喜寿糯」より、10%程度多収である（表2）。

玄米千粒重は、早植栽培、普通期栽培ともに、「十五夜糯」に比べ、30%程度重い。玄米の形は「半円」に属し、米粒は、「十五夜糯」より長く、幅広く、厚く、極大粒である。玄米の粒厚分布は、「十五夜糯」と比べ、粒厚の厚い粒割合が極めて高い。（表3、6、7）。玄米の外観品質は、早植栽培、普通期栽培ともに、「十五夜糯」に比べて優れる（表3）。また、玄米白度は、「十五夜糯」より高い（表13、17）。

6 餅の硬化特性、色相及び餅、おこわの食味

吊り下げ法⁶⁾による餅の硬化特性をみると、「愛知糯115号」は、「十五夜糯」に比べて硬化性が高い（図4）。国産糯米の主要な需要先は、餅製造業と米菓製造業であり、この2業界で総需要量の7割を超えるとされる⁷⁾。餅、米菓の製造工程における成形、切断等の行程には、作業効率が高まる硬化性の高い糯米が有利である。最も硬化性が高いとされる新潟産「こがねもち」が、餅・米菓業界において高い評価を得ている理由の一つである⁷⁾。餅・米菓加工における硬化性の面では、「愛知糯115号」は、「十五夜糯」より有利と考えられる。

また、切り餅の色相は、「十五夜糯」に比べて、くすみ（赤味）が少なく、彩度が高い（表13）。

煮餅の食味官能評価は、「十五夜糯」に比べて、のび、粘りの特性が優れ、総合評価が高い（表14）。また、お

こわの食味官能評価も粘り、味の特性が優れ、総合評価が高い（表15）。

7 現地適応性

2008年から2010年にわたり、県内延べ10か所のほ場で現地適応性について検討した結果、「愛知糯115号」は収量では「十五夜糯」に比べ多収を示す試験結果（全試験平均：十五夜糯対比114%）が多くみられた。外観品質は全ての試験において1等相当以上の高品質であり、玄米白度は高かった。これらのことから、現地での有望度は、全ての試験地において、「有望～やや有望」の高い評価が得られた（表16、17）。

8 他府県における試験成績

2009年以降、他府県において奨励品種決定調査が実施されており、現在、佐賀県、静岡県で有望視されている⁸⁾。他府県から指摘された「愛知糯115号」の有利形質は、収量、外観品質、穂発芽性、縞葉枯病抵抗性である。また、不利形質は熟期を指摘する府県が多い（図5）。

9 栽培上の注意点

適応地帯は、温暖地平たん部で、縞葉枯病抵抗性を有するので同病害発生地域にも適している。作型は、早植栽培（5月下旬）～普通期栽培（6月上中旬）に適応する。なお、葉もち抵抗性は「弱」のため、いもち病の発生が予測される場合や常発地帯においては、適切な防除に努める。

表1 一般特性（2008～2010年）

品種系統名	早晚性	草型	稈		芒		ふ先色	粒着密度	穂首抽出	脱粒性
			剛柔	細太	長短	多少				
愛知糯115号	中生	偏穂重型	剛	太	中	多	赤褐	やや密	中	難
(対) 十五夜糯	中生	偏穂数型	中	中	一	無	赤褐	やや密	中	難
(比) 喜寿糯	早生	中間型	やや剛	中	中	中	赤褐	やや密	中	やや難

表2 生育収量（2008～2010年）

作期 ¹⁾	品種系統名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏程度 ²⁾	精玄米重	同左対照比率
早植	愛知糯115号	8.21	10.01	77	19.8	260	0.2	47.4	111
	(対) 十五夜糯	8.18	9.26	76	19.4	332	0.5	42.7	100
	(比) 喜寿糯	8.14	9.23	75	21.3	325	0.2	42.5	100
普通期	愛知糯115号	8.27	10.13	74	20.1	303	0.0	45.0	111
	(対) 十五夜糯	8.27	10.11	73	19.5	356	0.2	41.0	100
	(比) 喜寿糯	8.22	10.02	74	20.7	390	0.0	40.0	98

1) 作期 早植：5月中下旬移植、普通期：6月上中旬移植

2) 倒伏程度：0（無）～5（甚）の6段階評価

表3 玄米調査 (2008~2010年)

1) 作期	品種系統名	玄米 _{1000粒} 重 g	玄米 千粒重 g	2) 品質	3) 被害粒の多少				
					青未熟	死米	茶米	胴割れ米	穂発芽米
早植	愛知糯115号	790	28.7	5.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0
	(対) 十五夜糯	805	21.2	5.4	0.1	0.2	0.4	0.1	0.1
	(比) 喜寿糯	798	22.1	5.4	0.0	0.2	0.4	0.1	0.1
普通期	愛知糯115号	775	27.8	4.7	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0
	(対) 十五夜糯	776	21.9	5.2	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2
	(比) 喜寿糯	782	22.2	4.9	0.1	0.3	0.3	0.1	0.0

1) 作期：表2に同じ

2) 品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価
5が1等、6が2等、7が3等相当（検査等級）

3) 被害粒の多少：0（無）～5（甚）の6段階評価

表4 節間長 (2010年)

品種系統名	穂長 cm	節間長					
		N 0 cm	N 1 cm	N 2 cm	N 3 cm	N 4 cm	N 5 cm
愛知糯115号	19.9	36.9	17.3	10.6	8.1	2.7	0.4
(対) 十五夜糯	20.0	37.9	18.3	9.7	6.6	2.2	0.3
(比) 喜寿糯	19.9	34.8	15.5	9.1	5.8	2.1	0.2

表5 穂相 (2010年)

品種系統名	穂数 本/株	穂長 cm	1穂 着粒数 粒	粒着 密度 粒/cm	枝梗数		枝梗別着粒数			
					1次 本	2次 本	1次 粒	同左歩合 %	2次 粒	同左歩合 %
愛知糯115号	14.8	19.9	109.0	5.5	10.5	17.0	69.1	63	39.9	37
(対) 十五夜糯	19.8	20.0	113.2	5.7	9.0	22.8	53.4	47	59.8	53
(比) 喜寿糯	18.2	19.9	99.9	5.0	8.8	15.8	56.2	56	43.7	44

表6 玄米の形状 (2008~2009年)

1) 作期	品種系統名	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長さ/幅	長さ×幅	長さ×幅× 厚さ
早植	愛知糯115号	5.60	3.32	2.37	1.69	18.59	44.06
	(対) 十五夜糯	5.02	2.98	2.10	1.68	14.96	31.42
	(比) 喜寿糯	5.15	2.94	2.08	1.75	15.14	31.49
普通期	愛知糯115号	5.67	3.27	2.37	1.73	18.54	43.94
	(対) 十五夜糯	5.08	2.94	2.08	1.73	14.94	31.07
	(比) 喜寿糯	5.18	2.90	2.07	1.79	15.02	31.10

1) 作期：表2に同じ

表7 玄米の粒厚分布 (2008~2009年)

作期 ¹⁾	品種系統名	<1.8mm	1.8-1.9mm	1.9-2.0mm	2.0-2.1mm	2.1-2.2mm	2.2mm<
		%	%	%	%	%	%
早植	愛知糯115号	0.1	1.0	1.8	5.1	16.9	75.4
	(対) 十五夜糯	0.6	3.6	15.2	47.8	30.6	2.4
	(比) 喜寿糯	0.6	3.3	10.8	45.1	35.2	5.2
普通期	愛知糯115号	0.8	3.6	7.5	15.7	23.2	49.5
	(対) 十五夜糯	1.7	11.4	30.4	38.3	16.5	2.1
	(比) 喜寿糯	1.6	9.5	26.8	44.5	16.4	1.6

1) 作期：表2に同じ

表8 穂発芽検定 (2008~2010年)

作期 ¹⁾	品種系統名	供試年次						平均判定
		2008		2009		2010		
		発芽歩合	判定	発芽歩合	判定	発芽歩合	判定	
早植	愛知糯115号	10	○	2	○	4	○	○
	(対) 十五夜糯	93	×	99	×	85	×	×
	(比) 喜寿糯	20	○△	95	△×~×	23	△	△
普通期	愛知糯115号	20	○	5	○	2	○	○
	(対) 十五夜糯	100	×	70	×	60	×	×
	(比) 喜寿糯	60	△	28	△	19	△	△

1) 作期：表2に同じ

判定基準 ◎：ごく難、○：難、○△：やや難、△：中、△×：やや易、×：易

表9 いもち病真性抵抗性検定 (2008~2009年)

品種系統名	接種菌株名	Kyu89-246	新83-34	稲86-137	推定遺伝子型
	(レース)	(003)	(005)	(007)	
愛知糯115号		R	S	S	<i>Pii</i>
新2号		S	S	S	+
愛知旭		S	R	S	<i>Pia</i>
藤坂5号		R	S	S	<i>Pii</i>

表10 いもち病ほ場抵抗性検定 (2008年)

品種系統名	葉いもち	
	発病度 ¹⁾	判定
愛知糯115号	8.0	×
黄金晴	9.0	×

1) 発病度：0 (無) ~ 10 (甚) の11段階評価

判定基準 ◎：ごく強、○：強、○△：やや強
△：中、△×：やや弱、×：弱

黄金晴：基準品種

試験実施場所：山間農業研究所

表11 縞葉枯病抵抗性検定 (2008~2009年)

品種系統名	発病苗率		判定
	2008	2009	
	%	%	
愛知糯115号	27	18	抵抗性
コシヒカリ	100	70	罹病性
あさひの夢	27	0	抵抗性

2.8~3.0葉期の幼苗検定

コシヒカリ、あさひの夢：基準品種

表12 白葉枯病抵抗性検定 (2008~2009年)

品種系統名	2008			2009			平均		
	発病度 ¹⁾		判定	発病度 ¹⁾		判定	発病度 ¹⁾		判定
	I	II		I	II		I	II	
愛知糯115号	2.0	1.0	○△	4.0	1.0	△	3.0	1.0	△
(対) 十五夜糯	4.0	2.0	△	6.0	2.0	×	5.0	2.0	△×

1) 発病度：0（無）～10（甚）の11段階評価

判定基準 ◎：ごく強、○：強、○△：やや強、△：中、△×：やや弱、×：弱

表13 白度と切り餅の色相 (2009~2010年)

品種系統名	玄米白度 ¹⁾	精米白度 ¹⁾	精米歩合	切り餅の色相 ²⁾			
				L* 明度	a* 赤味	b* 黄色味	C* 彩度
			%				
愛知糯115号	30.5	56.7	87.7	81.0	-1.55	12.9	13.0
(対) 十五夜糯	29.8	54.1	87.6	78.1	-1.39	11.5	11.5

1) 白度：ケット社製C-300で測定

2) 色相：ミノルタ社製CM-3500dで測定

表14 煮餅の食味官能評価

調査年月日	品種系統名	官能評価						
		総合	外観	のび	こし	粘り	味	舌触り
2010. 2. 15	愛知糯115号	0.30	1.00**	0.71**	-0.40	1.00**	0.20	0.00
	(基) 十五夜糯	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2011. 1. 15	愛知糯115号	0.36	0.29	0.71**	-0.36	0.71*	0.07	0.36
	喜寿糯	-0.29	0.14	-0.29	0.21	-0.07	-0.07	-0.07
	(基) 十五夜糯	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

**：1%水準、*：5%水準で、十五夜糯と有意差有り

パネラー数：14名

表15 おこわの食味官能評価

調査年月日	品種系統名	官能評価				
		総合	外観	味	粘り	硬さ
2011. 3. 23	愛知糯115号	0.80**	0.53	0.53*	0.93**	-0.07
	喜寿糯	0.13	0.13	0.47	-0.07	0.20
	(基) 十五夜糯	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

**：1%水準、*：5%水準で、十五夜糯と有意差有り

パネラー数：14名

表16 県内現地試験結果（2008～2010年）

試験場所	2008			2009			2010		
	収量 ¹⁾	品質 ²⁾	有望度 ³⁾	収量 ¹⁾	品質 ²⁾	有望度 ³⁾	収量 ¹⁾	品質 ²⁾	有望度 ³⁾
春日井	122	4.0	○	—	—	—	—	—	—
岡崎	113	3.5	○	111	4.5	○	127	5.0	◎○
豊川	96	3.5	○	—	3.5	○	—	—	—
新城	—	—	—	106	4.5	○	98	5.0	○
農大	123	3.3	◎	—	—	—	130	5.0	◎○

- 1)収量：十五夜糯対比（%）
- 2)品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価、5が1等、6が2等、7が3等相当（検査等級）
- 3)有望度 ◎：有望、○：やや有望、△：見込み不明、×：見込みなし

表17 現地試験における玄米白度¹⁾（2008～2010年）

試験年次	品種系統名	春日井	岡崎	新城	御津
2008	愛知糯115号	31.8	30.8	—	29.6
	（対）十五夜糯	29.0	29.0	—	28.8
2009	愛知糯115号	—	34.4	30.4	32.1
	（対）十五夜糯	—	31.9	27.7	32.0
2010	愛知糯115号	—	32.8	31.1	—
	（対）十五夜糯	—	32.7	29.3	—

1)白度：ケット社製C-300で測定

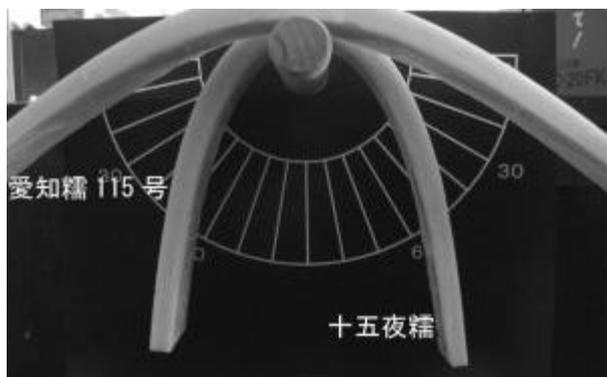
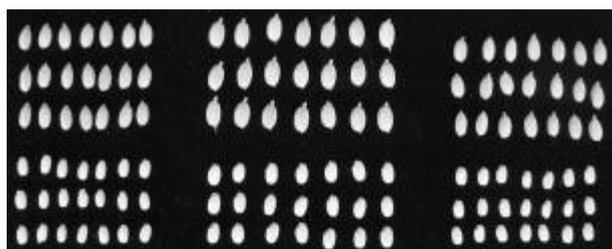


図4 餅の硬化性試験
試験方法は、イネ育種マニュアル⁶⁾による



(比)喜寿糯 愛知糯115号 (対)十五夜糯
図6 「愛知糯115号」、対照品種及び比較品種のもみと玄米

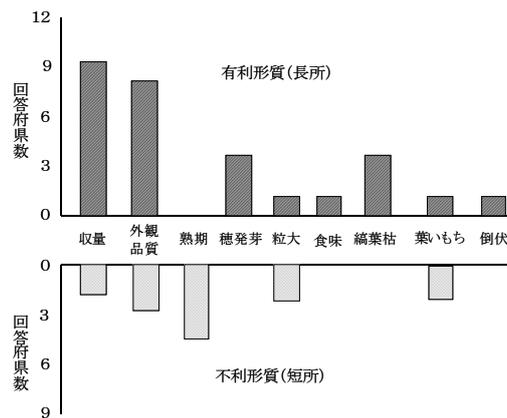


図5 他府県から指摘された有利不利形質（複数回答）



(比)喜寿糯 愛知糯115号 (対)十五夜糯

図7 「愛知糯115号」、対照品種及び比較品種の草型

10 今後の取り組み

餅、おこわの予備試験の結果では、「愛知糯115号」と「十五夜糯」を比較すると、餅では煮餅の煮上がり時間、おこわでは蒸し上がり時間などに違いが見られ、その加工・調理特性は異なると考えられる。今後は、餅、おこわ加工業者、6次産業実践農家等と連携した加工試験、食味試験等により「愛知糯115号」の加工・調理特性を明らかにし、生産から加工、消費までの道筋を関係者一丸となって構築し、「愛知糯115号」の普及定着を図る必要がある。また、本県はみりん醸造業が盛んであり、現在、メーカーにより「愛知糯115号」を用いたみりんの醸造試験が実施されている。みりん用途としての普及も期待したい。

11 育成者と従事年

本品種の育成に関与した担当者とその従事期間を表18に示した。

謝辞：本品種の育成に当たっては、県内各農林水産事務所農業改良普及課及び奨励品種決定現地調査の担当農家の方々に多大なご協力を頂いた。ここに記して、関係者各位に深甚な謝意を表する。

引用文献

1. 香村敏郎，高松美智則，釋一郎，朱宮昭男，芳賀光

表18 育成者と従事年度

氏名 \ 年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
加藤裕司												←→
加藤 満									←→	←→	←→	←→
伊藤 晃												←→
杉浦和彦												←→
船生岳人					←→	←→	←→	←→				
坂 紀邦	←→											
辻 孝子	←→	←→										
中村 充						←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
濱田千裕	←→											
藤井 潔		←→										
城田雅毅									←→	←→	←→	←→
杉浦直樹	←→	←→	←→	←→								
加藤恭宏	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
工藤 悟									←→	←→	←→	←→
加藤博美												←→
澤田恭彦							←→	←→	←→	←→	←→	←→
井澤敏彦	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
鈴木敏夫					←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
釋 一郎			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
井上正勝				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
育成経過	交配											
	補種集定											
		選抜・固定		特性・生産力検定								

司，谷口学，工藤悟，伊藤和久，田辺潔，中嶋泰則，杳名吉弘．水稲早期栽培用のもち新品種「恵糯」の育成．愛知農総試研報．15，14-23(1983)

2. 香村敏郎，伊藤俊雄，高松美智則，江坂正二，中森雅澄，西尾敏男．水稲新品種「喜寿糯」の育成について．愛知県農業試験場彙報．25，11-20(1971)

3. 香村敏郎，釋一郎，朱宮昭男，高松美智則，伊藤俊雄，工藤悟，加藤恭宏，坂紀邦．水稲もち新品種「十五夜糯」の育成．愛知農総試研報．17，17-25(1985)

4. 赤間芳洋，森元武，田辺潔，井上正勝，朱宮昭男，藤井潔，工藤悟，小出俊則，遠山孝通，伊藤喜一，伊藤幸司．水稲新品種「ココノエモチ」の育成．愛知農総試研報．20，24-36(1988)

5. 加藤満，杉浦直樹，辻孝子，中村充，城田雅毅，加藤恭宏，船生岳人，工藤悟，加藤博美，澤田恭彦，鈴木敏夫，釋一郎，井上正勝，山本晃司，伊藤彰敏．酒造好適米「夢吟香」の育成．愛知農総試研報．43，17-24(2011)

6. 農業研究センター．イネ育種マニュアル．農業研究センター研究資料．30，p.66-67(1995)

7. 宮入隆，佐藤伸，三島徳三，今野聖士．もち米の市場動向と産地対応．名寄市立大学・市立名寄短期大学道北地域研究所年報．26，13-34(2008)

8. 農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所低コスト稲育種研究チーム．水稲奨励品種決定基本調査成績データベース．(2010)